

ビジネスセクターにおける SDGsの可能性と機会

(公財)地球環境戦略研究機関
持続可能性ガバナンスセンター
小野田真二



2020年7月28日(火) 13:30-14:30
SDGsと事業戦略の統合 -JCM活用の可能性-

本日はお話しすること

1. SDGsとは、SDGsの進捗状況
2. SDGsがもたらす機会
3. SDGsと事業戦略の統合に関する動向
4. SDGsにどう取り組むか

1. SDGsとは SDGsの進捗状況



SDGsで目指す世界



**人々の基本的ニーズを満たしつつ、
環境への影響を地球の限界内にとどめる世界**

SDGsとは

• SDGsの特徴

- 17のゴールは、将来の「ありたい姿」
- **169のターゲットが、具体的な「目標」相互に関連し、統合的で分割不可**
- 247の指標で進捗を測定（重複を除くと231指標）
- ゴールもターゲットも指標も、**地球レベル**を対象（ただし各国や地域のターゲット・指標により補完）
- 法的拘束力はなく、**各国・各地域・各主体（ビジネスを含む）が自主的に**取り組むもの

ターゲットの例（一部省略して記載）

- 6.1 2030年までに、すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的で平等なアクセスを達成する。
- 6.6 2020年までに、山地、森林、湿地、河川などの水に関連する生態系の保全・回復を行う。
- 6.a 2030年までに、開発途上国における水と衛生分野での国際協力と能力構築支援を拡大する。

（※**開発**、**環境**、a,b は実施手段）



SDGsの進捗状況

(持続可能な開発に関するグローバル・レポートより)



GOAL	WITHIN 5%	5-10%	>10%	NEGATIVE LONG-TERM TREND
Goal 1		1.1. Eradicating extreme poverty	1.3. Social protection for all	
Goal 2		2.1. Ending hunger (undernourishment)	2.2. Ending malnutrition (stunting) 2.5. Maintaining genetic diversity 2.a. Investment in agriculture*	2.2. Ending malnutrition (overweight)
Goal 3	3.2. Under-5 mortality 3.2. Neonatal mortality		3.1. Maternal mortality 3.4. Premature deaths from non-communicable diseases	
Goal 4	4.1 Enrolment in primary education	4.6 Literacy among youth and adults	4.2. Early childhood development 4.1 Enrolment in secondary education 4.3 Enrolment in tertiary education	
Goal 5			5.5. Women political participation	
Goal 6		6.2. Access to safe sanitation (open defecation practices)	6.1. Access to safely managed drinking water 6.2. Access to safely managed sanitation services	
Goal 7		7.1. Access to electricity	7.2. Share of renewable energy* 7.3. Energy intensity	
Goal 8			8.7. Use of child labour	
Goal 9		9.5. Enhancing scientific research (R&D expenditure)	9.5. Enhancing scientific research (number of researchers)	
Goal 10			10.c. Remittance costs	Inequality in income*
Goal 11			11.1. Urban population living in slums*	
Goal 12				12.2. Absolute material footprint, and DMC*
Goal 13				Global GHG emissions relative to Paris targets*
Goal 14				14.1. Continued deterioration of coastal waters* 14.4. Overfishing*
Goal 15				15.5. Biodiversity loss* 15.7. Wildlife poaching and trafficking*
Goal 16			16.9 Universal birth registration **	

- 初等教育(SDG4)、新生児及び5歳未満児死亡率(SDG3)は、進捗あり。
- 不平等(SDG10)、環境ゴール(SDG12~15)は、後退している。
- 特に不平等の増大、気候変動、生物多様性の損失、処理能力を凌駕する廃棄物の問題は後退しており、負の転換点(tipping points)に向かっている。

2. SDGsがもたらす機会



SDGsが秘める大きなポテンシャル

・SDGs達成によってもたらされる市場機会の価値

年間12兆ドル

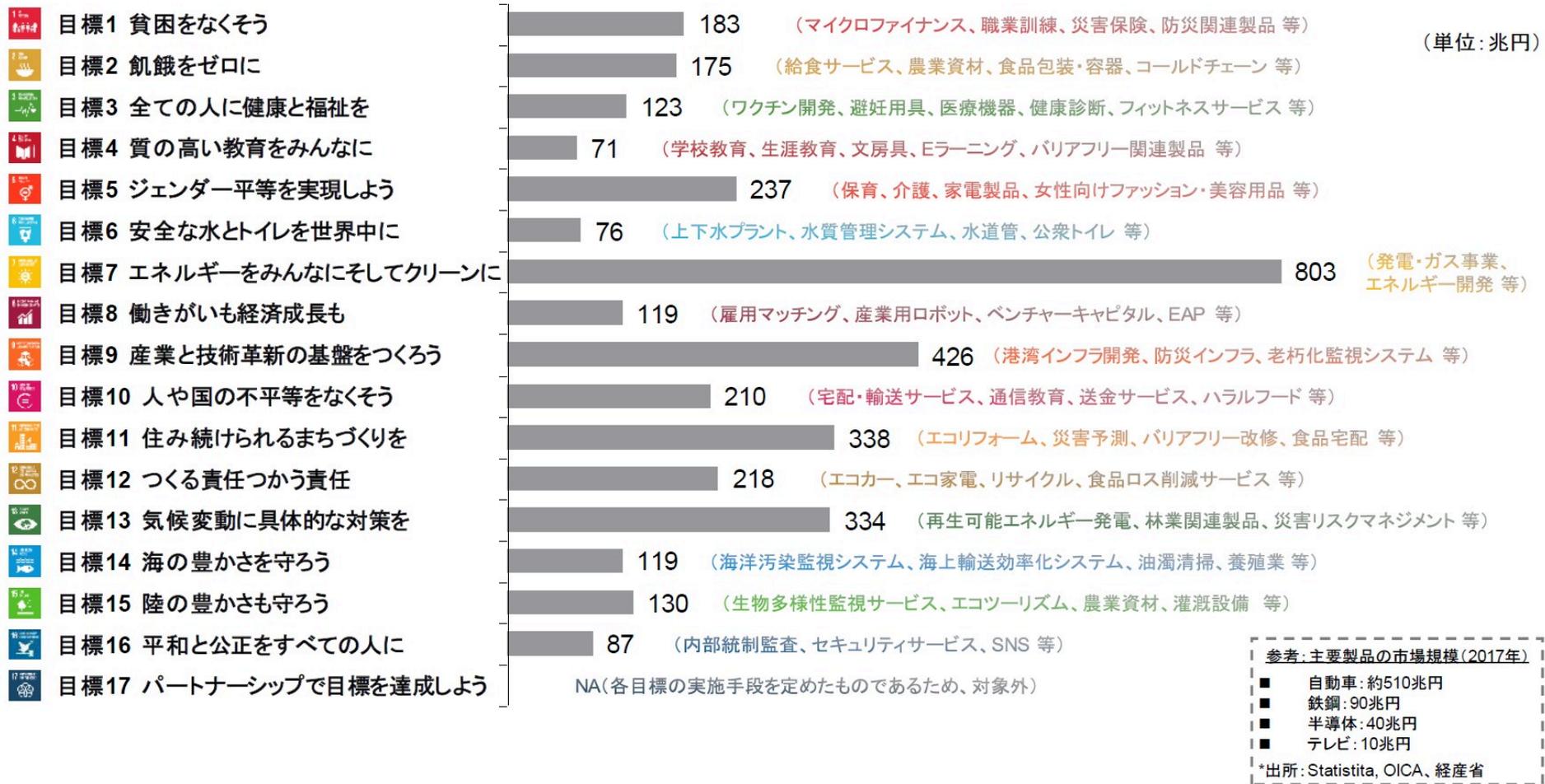
・2030年までに世界で創出される雇用

約3億8000万人

出典：プライスウォーターハウスクーパース（PwC）2015年調査、Better Business, Better World, Business & Sustainable Development Commission

<SDGsの各目標の市場規模試算結果(2017年)>

(単位: 兆円)



169の「ターゲット」からキーワードを抽出し、SDGsに関連する個別ビジネスを洗い出した結果、「SDGsビジネス」の各目標の市場規模は70～800兆円にのぼる

3. SDGsと事業戦略の統合 に関する動向



日本企業・団体のSDGsの取組動向

GCNJ・IGES 2019年度共同調査レポートより

1. はじめに
2. SDGsの国内外の動向
3. ESG投融资の基礎情報と国内外の動向
4. 国内の金融機関によるESG取組み
5. **SDGs取組の経年変化**
6. 国内の企業によるESG・SDGs取組み
7. おわりに



付録：ESG・SDGsインタビュー & 事例集

- ・ 金融機関 9事例
- ・ 事業会社 8事例



調査の概要

● アンケート調査

- 調査対象 – 全GCNJ会員：335企業・団体（2019.9.1時点）
- 調査方法 – WEBアンケート
- 調査期間 – 2019.9.1～10.11
- 調査内容 – SDGsの認識、取り組み状況、課題、今後の方向性について
- 回収状況：186企業・団体（回収率：55.5%）

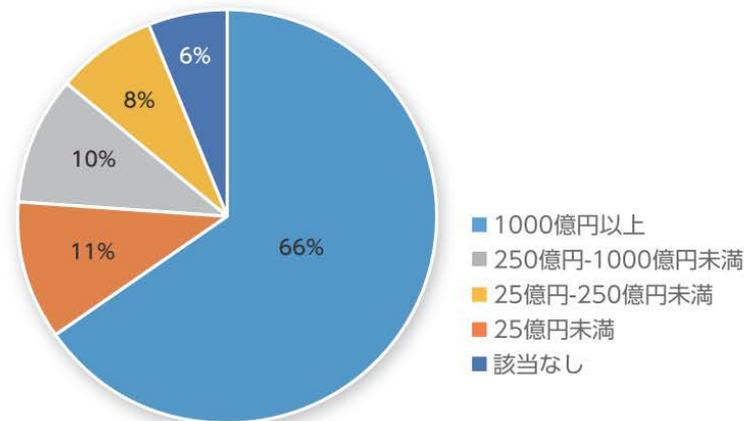


図1：回答企業・団体の売上高（n=186）

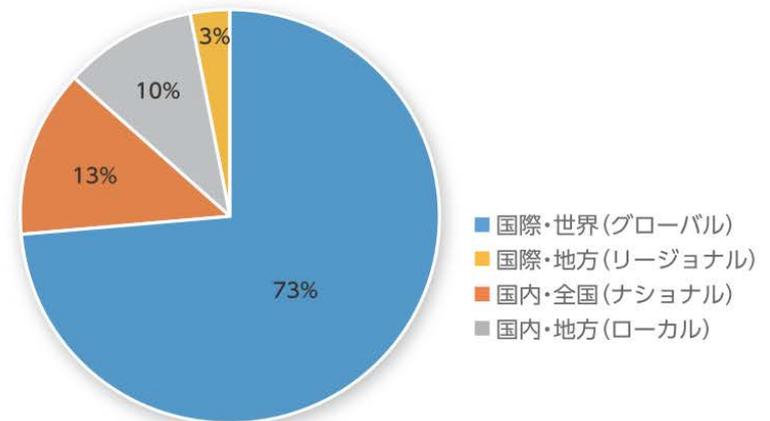
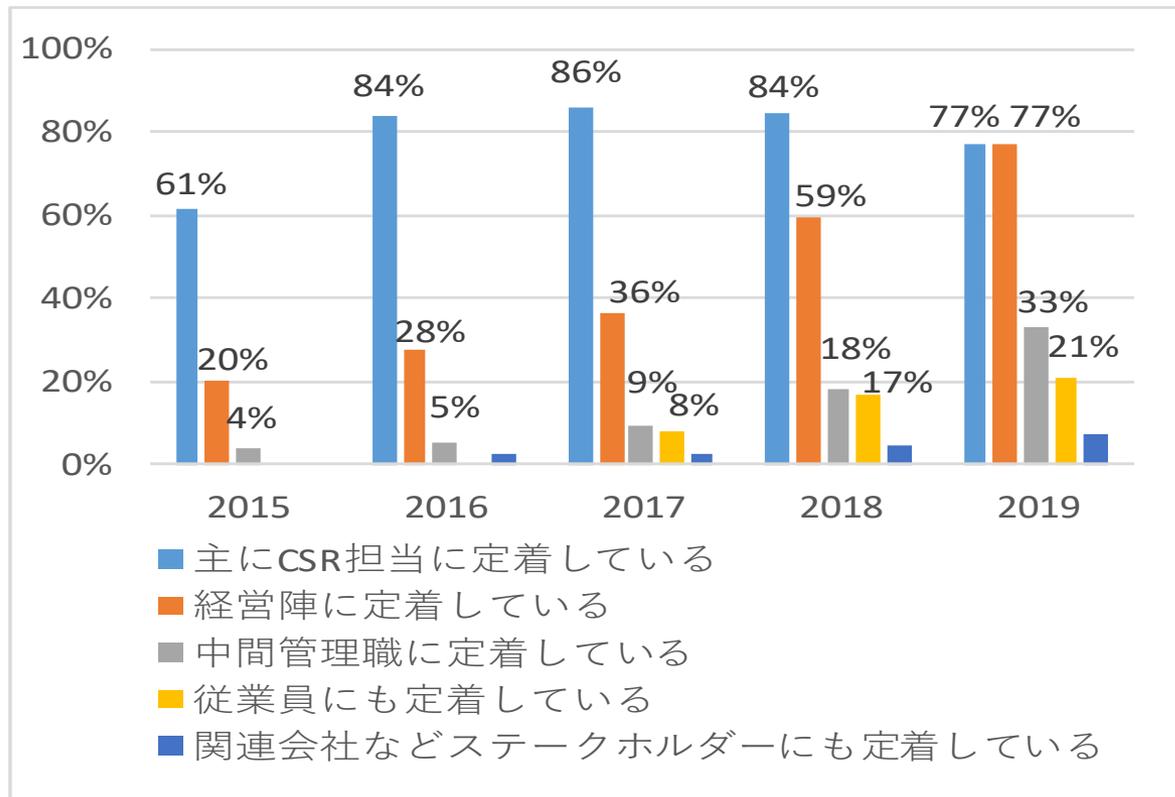


図2：回答企業・団体の市場（n=186）

SDGsの認知度

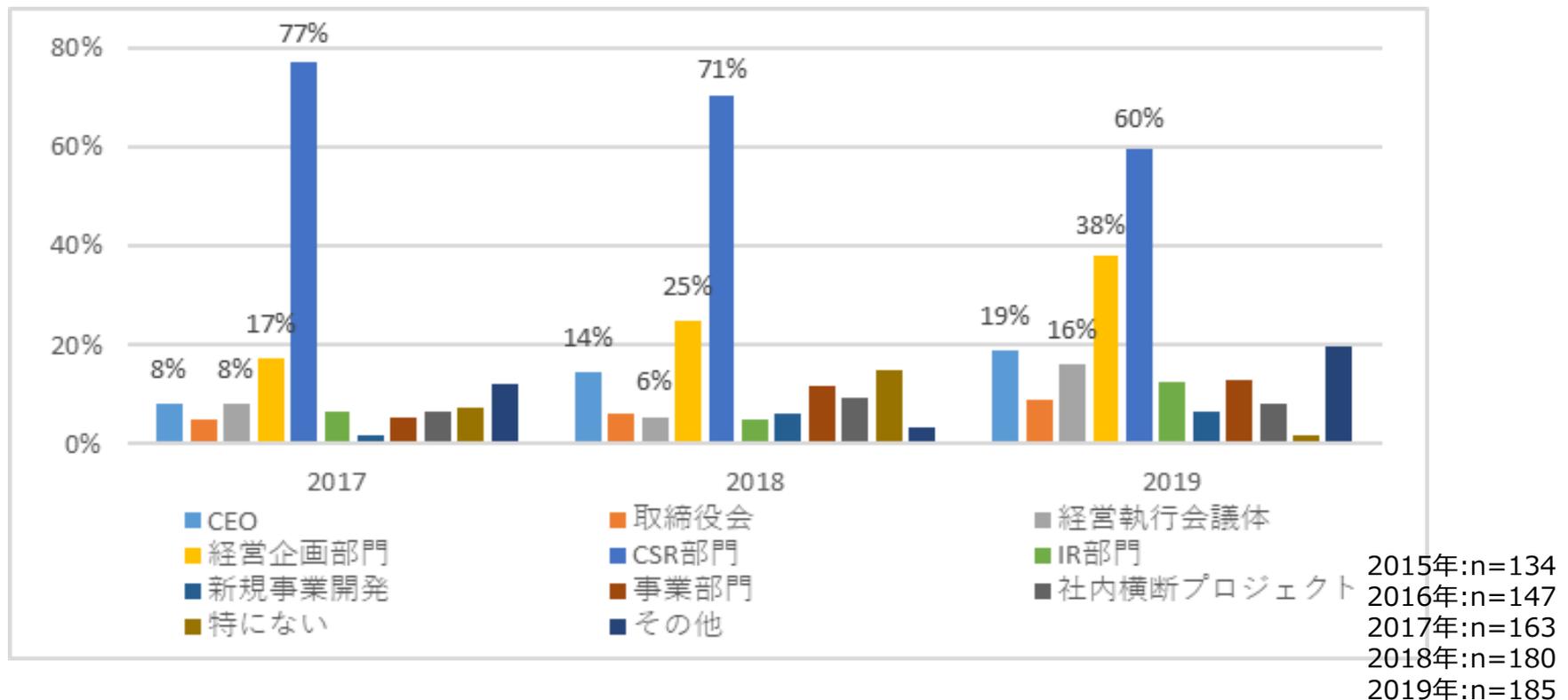
- 経営陣の認知度は毎年確実にあがり、2019年は**77%**に。
- 中間管理職、従業員も上昇傾向だが**不十分**な認知度。

✎ 貴社・団体内でのSDGsの認知度について、あてはまる状況を選択してください。（複数回答）



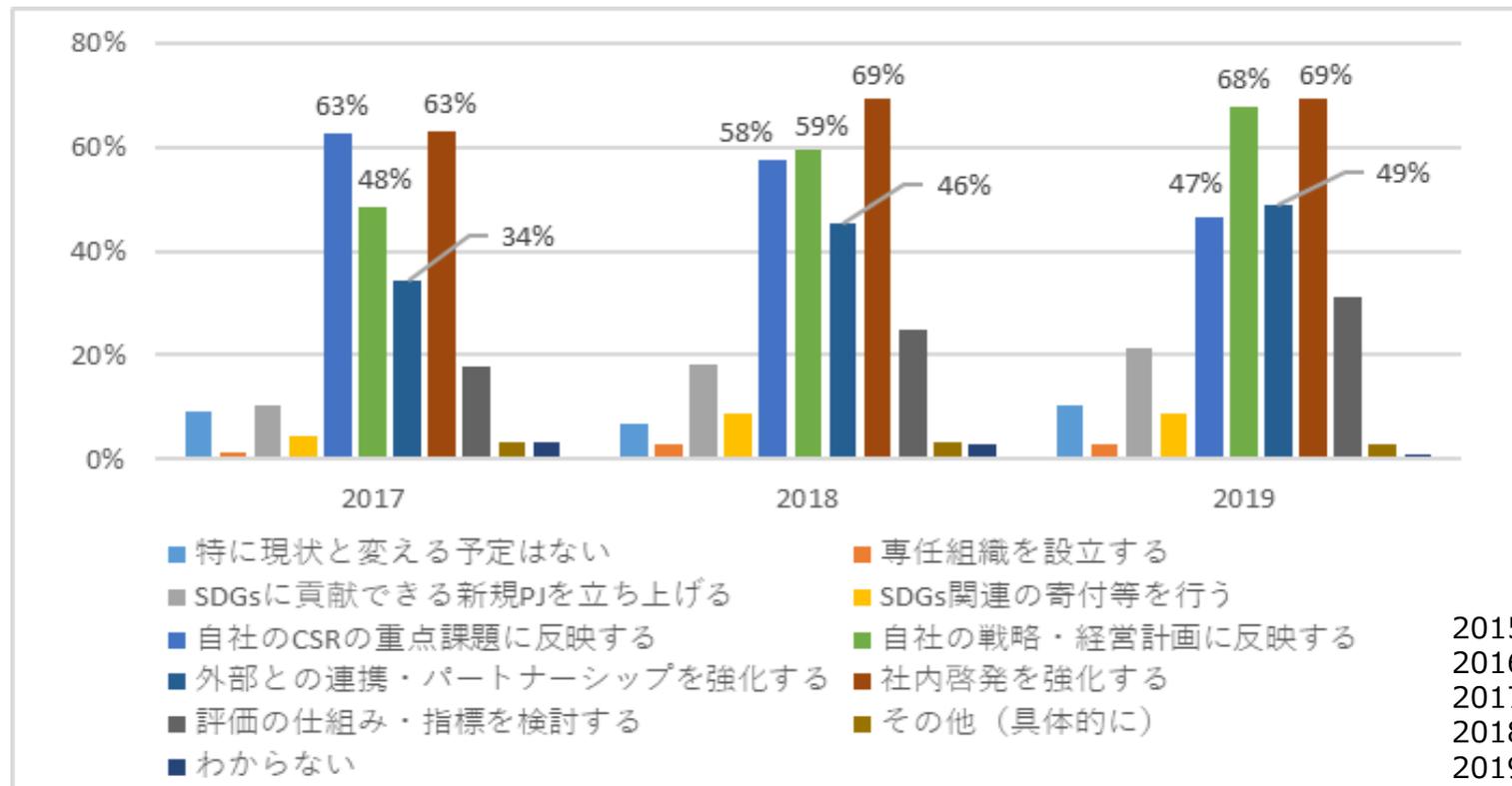
SDGsの推進活動主体

- 2017年にCSR部門が77%だったのが、2019年には60%まで減少
- CEO、経営執行会議体、経営企画部門等、**経営に関わるほぼすべての部門・主体が増加**（とくに、経営企画部門は17→38%と顕著な増加）



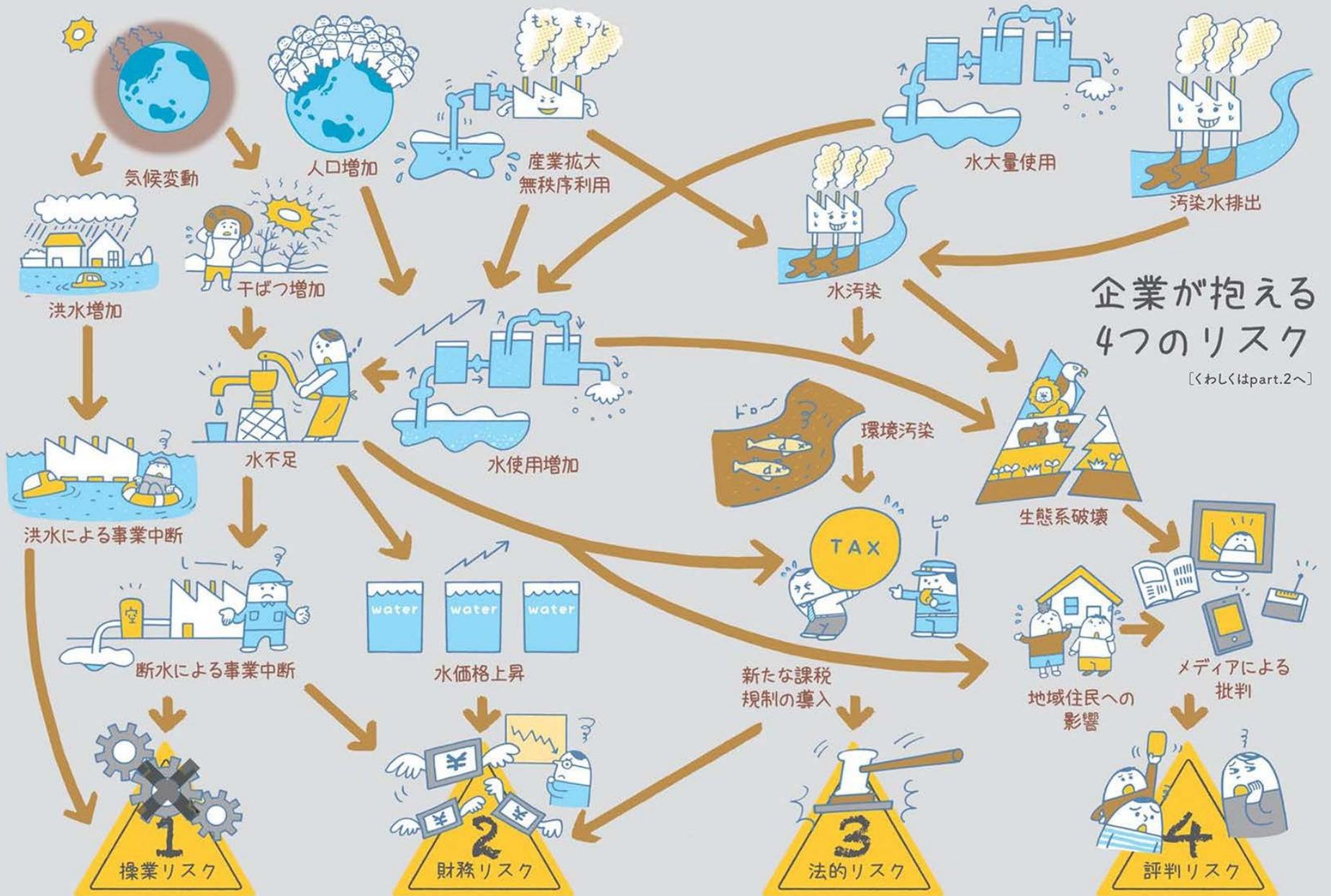
今後のSDGsの取り組み

- 「CSRの重点課題に反映する」が3年連続で減少
- 一方、「自社の戦略・経営計画に反映する」が3年連続で増加し、両者の数値が逆転
- 「評価の仕組み・指標を検討する」、「SDGsに貢献できる新しいプロジェクトを立ち上げる」、「外部との連携・パートナーシップを強化する」も3年連続で増加



4. SDGsにどう取り組むか





自社・担当業務とSDGsの関係は？

- 2030年、2050年に自社はどうなっていたいか？（長期的視点）
 - 現在・将来的に、自社に影響する環境・社会課題は何で、どのような役割を果たすべきか？
 - 「影響」を操業、財務、法的、評判のリスクから考えて思い浮かぶことは？
- そこに向かって短期、および中長期ですべきことは？（戦略・体制）
 - 担当業務の中でできることは？
 - 会社としてすべきことは？
（他部門ができること、経営層がすべきこと）
 - 自社単独でできることは？
 - 他社（同業種、他業種）、政府、市民と協力すればできることは？
- ✓ 管理職や従業員を巻き込んで検討してみましよう。

まとめ

- SDGsの進捗は思わしくない(取り組みの加速が必要)
- SDGsに関連するビジネス機会は非常に大きい
- 企業はSDGsを事業戦略の中に組み込みつつある
- その実践にあたっては、現場の理解と、様々な課題に同時にアプローチする統合的な視点と、パートナーシップが重要

このような視点から、JCMの可能性に着目されてみてはいかがでしょうか

ご清聴ありがとうございました。